

一步踏み出せ!

日光を輝かせる女性の力

女性の皆さん、自分の特技や能力を生かし、充実した毎日を送っていますか。また男性の皆さん、もっと仕事の時間を減らし、子どもや家庭との時間を取りたいと思ったことはありませんか。お互いに男性、女性の役割にこだわらず、パートナーや身の回りにいるの人の意見や意思を尊重できているでしょうか。

この特集では、市内で活躍する女性たちを紹介するとともに、男女共同参画の視点から、日光市の将来のために私たち市民ができることについて考えていきます。

夫婦で薬局を切り盛りする長谷川敬、幸枝夫妻。2人の娘を育てながら仕事を続けてきた秘訣について、「家族の協力があったこそ」とお互いをいたわり合う。



男女共同参画セミナーで発表する参加者。男性、女性がともに取り組む介護について考えた

1 男女共同参画社会とは

「男性らしく、女性らしく」も大切。でも、それを超えて「自分らしく」がこれからの生き方です。
男女共同参画社会は、誰もが自分らしく生きる社会を目指しています。

自分らしく生きる

「女の子らしくしなさい」「男のくせに：」「女なのに：」子どもの頃や大人になって、一度は言われたことがある人も多いのではないのでしょうか。
「男らしく、女らしく」ではなく「自分らしく」。互いが人権を尊重しつつ、性別に関わりなく個性と能力を発揮し、あらゆる分野に参画できる、それを実現したものが男女共同参画社会です。

女性の力なくしては成り立たない時代に

国は、少子高齢化に歯止めをかけ、日本の未来を切り開く対応策として、一億総活躍社会の実現を掲げています。経済の成熟化と合わせて人口減少や少子高齢化が進み、生産年齢人口(労働力の中核をなす15歳以上65歳未満の人口層)が減少した現在、女性の力なしには、経済も地域社会も成り立たなくなるといわれています。
そこで提案されたのが、男女共同参画社会の推進です。女性の人権の尊重ということだけではありませぬ。古くからのしきたりや慣習にとらわれることなく、個々の能力や個性を発揮できる、そんな男女がともに輝ける社会の実現が求められています。

実現に向けて

市は、「一人一人が輝く男女共同参画社会」を目指す姿として掲げ、その実現に向けたさまざまな取り組みを行っています。

平成26年12月17日(木)に開催した男女共同参画セミナー「ともに支え、担う介護セミナー」では、有有限会社フェードインの皆川紘子氏を招き、介護の負担増による退職(介護離職)増加の実態や、仕事と介護の両立に向けたワークライフバランスについての講演がありました。講演後、参加者はグループワークを行い、自分たちができることについて意見交換をしました。

終了後のアンケートでは、「子どものうちから男女が協力して家事をするように意識改革をしていくべき」「親子3代で暮らせることがどんなに素晴らしいことか知って欲しい」などの意見が寄せられました。

